

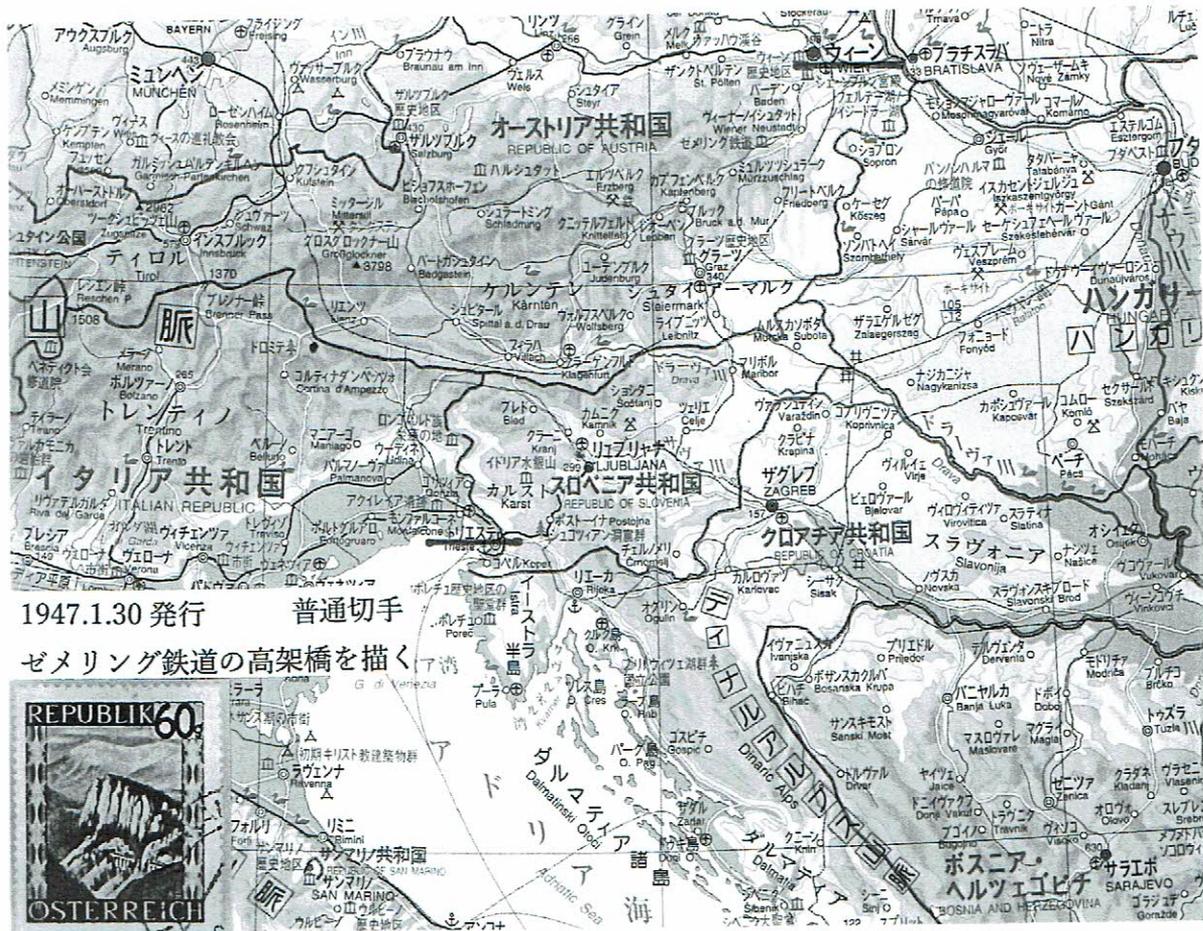
ハプスブルク帝国（オーストリア・ハンガリー帝国とも呼ばれた）の皇帝フランツ・ヨーゼフ一世は、首都ウィーンから険しいゼメリングの山脈を超えて帝国の重要な外港で、帝国海軍の基地があるアドリア海のトリエステ港までの鉄道建設を命じた。1839年皇帝の命を受けたカール・リッター・フォンゲールは、アメリカ横断鉄道を視察して、この鉄道をアプト式などの特殊な鉄道ではなく普通の形式の鉄道で建設することを決めた。

1849年から建設が開始され、1854年ヨーゼフ皇帝の臨席のもと全線の開通式が行われた。線路は1000分の25の急勾配と幾重にも重なった急曲線の連続で、大変な難であった。

その後、ハプスブルク帝国はフランス帝国、プロシア王国（後のドイツ帝国）等と覇権争い（第一次世界大戦）で敗れ、帝国は構成していた民族が独立して、幾つかの国に分裂した。ウィーンからトリエステまでの鉄道も運命を共にして分解された。終点のトリエステの町は第一次世界大戦後、イタリアが占領イタリア領となっていたが、第二次世界大戦後はイタリアとユーゴスラビアが占有主張し、1947年の対イタリア平和条約で国際連合が管理する自由地域となり、北部A地区(236 km²)をアメリカ・イギリスが、南部B地区(515 km²)はユーゴスラビアの管理としました。1975年、A地区はイタリア領となって、B地区はユーゴスラビア領となって決着しました。

郵趣的には、1947年からトリエステ市とトリエステA地区ではイタリア切手に「A.M.G.F.T.T」と加刷された切手を使用された。また、トリエステB地区ではパルチザン発行の切手やユーゴスラビアが発行した「STT.VUJNA」の国名表示の切手を使用された。

後日談として、トリエステB地区では1954年ユーゴスラビアが解体された後はスロベニアとクロアチアに分割されました。



1947.1.30 発行 普通切手

ゼメリング鉄道の高架橋を描く

土曜日配達は今10月に廃止

日本郵便は4月1日、郵便物の土曜日配達を今年10月に廃止と発表したが、平日の翌日配達も来年の1月以降、エリアごとに順次廃止されます。2日後の配達を基本とするが、木曜日に差し出した場合は月曜日の配達となります。

普通郵便の配達頻度を「週6日以上」から「週5日以上」に緩和する改正郵便法が昨年成立したのを受けて、これにより年間50億円程度の経費削減を見込まれる。但し、書留郵便・速達はこれまで通り土曜日にも配達し、配達日数も変更はない。

速達料金は10月以降、10%値下げし「250g以下」の場合は290円より260円となる。

最近の普通切手は、短期間で販売終了となるものが増えています。現行切手を収集されている方は、早めのエンタィアの確保をお勧めします。